



「に」げずに
「し」んじて
「かん」しゃして
「き」ようりよくする



加古川市立西神吉小学校

学校通信

No. 146

～ 『想像』について、もう少し ～

前号で、ジュール・ヴェルヌという SF 作家が残した『人間が想像できることは、人間が必ず実現できる』という名言にふれました。この言葉を聞くと、なんだか背中を押されるような、不思議な気持ちになりますが、なぜ「必ず実現できる」と言い切れるのでしょうか。実は、何の根拠もない絵空事ではなく、そう言い切ることができる理由があるようです。

1. 想像力は「設計図」である

何かを発明したり、新しい生き方を始めたりするとき、私たちは必ず頭の中で「もし、こうだったら？」というシミュレーションをします。想像することは「ゴール地点を決める」ことと同じことです。だからこそ、ゴールへたどり着くためのルート（手段）を探すことができます。つまり、想像できた時点で、それは単なる空想ではなく、「実現すべき課題」へと形を変え、進むべき道を見つけることができるようになります。少し前にメジャーリーガーの大谷選手が実践した「マンダラチャート」も夢を実現するための設計図です。

想像力は、新しいものを形にしたり、目標を達成するための設計図であると言えます。

2. 「不可能」と「可能」の境界線が動いている

かつて「空を飛ぶこと」はもちろん、「月に行くこと」や「地球の裏側の人と顔を見て話すこと」は、ただの魔法や夢物語だと思われていました。しかし、誰かがそれを「あったらいいな」と強く想像し、言葉にし、共有したことで、科学や技術がその想像を追いかけるようにして進化しました。

スポーツの世界で「不可能」と言われていた記録が、どんどん更新されていくのもそうです。一例をあげると、100年前の100m走の世界記録は10,4秒でした。それから少しずつ更新し、現在は9,58秒で、0,8秒短縮されました。たったそれだけ？と思うかもしれませんが、距離で言うと8mも速くなったことになります。

人類の歴史は、想像力の後追いだと言っても過言ではありません。「不可能」と「可能」の境界線は、ずっと同じではなく、絶えず「不可能」から「可能」へと動いています。

3. 「認識」した瞬間に可能性が生まれる

心理学的な側面で見ると、人間は「自分に関係がある」と認識したもの以外は、チャンスとして捉えることができないそうです。自分に関係のあることや興味のあることは目に付くけれど、そうでないものは目に映っていても見えていないということです。

「こうなりたい」と想像することで、脳がそれに関連する情報やチャンスを自動的にキャッチし始めます。これをカラーバス効果やRASの働きと呼んだりするそうです。例えば、こんな経験があるのではないのでしょうか。「雑踏の中でも自分の名前だけは聞こえる」「電車の中で寝ていても、降りる駅になると目が覚める」「欲しい車を決めると、その車ばかりが道路を走っているように感じる」等々。

1月の朝会で「心のスイッチ」という詩を紹介しましたが、まさにそれですね。



もちろん、魔法のようにパッと消えたり、物理法則を無視したようなことはすぐには難しいかもしれませんが、ですが、ヴェルヌが描いた潜水艦や月旅行が現実になったように、「今の常識では無理」なことも、「未来の技術」が解決する可能性をこの言葉は含んでいます。

子どもたちには「想像すること」を大切にしてほしいと思います。そして、「できるかどうか」ではなく、「どうやってやるか」を考えてほしいです。西神吉っ子のみなさん、どんどん「想像」しましょうね。